

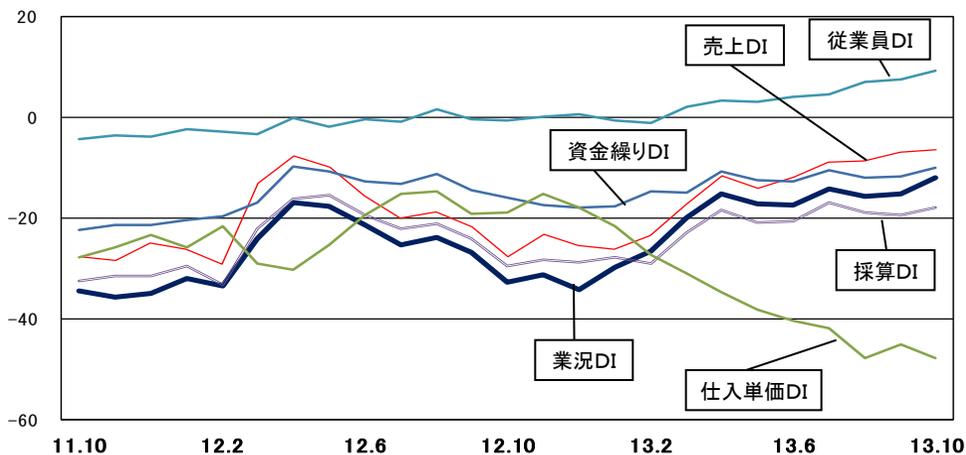


業況DIは、改善。業種にばらつきがみられるも、回復基調が続く

ポイント

- ▶10月の全産業合計の業況DIは、▲11.9と、前月から+3.2ポイントの改善。建設業や自動車関連・住宅関連の製造業などで売上が好調なほか、個人消費は都市部を中心に底堅く、台湾や東南アジアをはじめとする外国人観光客も増加傾向にあるなど、回復基調が続いており、中小企業にも徐々に景気回復の実感が及びつつある。他方で、仕入価格や燃料費・電力料金などのコスト負担が増加する中、収益改善が遅れている企業も多く、業種によって、景況感にばらつきがみられる
- ▶先行きについては、先行き見通しDIが▲10.4(今月比+1.5ポイント)と、改善する見込み。建設業や自動車関連をはじめとする製造業の業績改善に加え、小売業でも消費税引き上げ前の駆け込み需要本格化が期待されることなどから、回復基調は続く見通し。一方で、仕入価格や電力料金などのコスト増が続く中、転嫁が困難な中小企業からは、先行きに対して慎重にならざるを得ないとの声が聞かれる

LOBO全産業合計の各DIの推移(2011年10月以降)



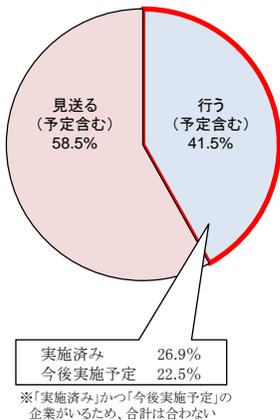
今年度の設備投資の動向

- ▶設備投資を「行う(予定含む)」企業(全産業)は41.5%(38.1%)から小幅な増加
- ▶設備投資を行う企業の投資規模は、「昨年度より拡大」が46.0%と、5月調査(37.2%)から増加。投資内容は、「国内で新規設備投資」が48.7%と、5月調査(34.4%)から大幅に増加するなど、一部の企業は新規投資に前向きな姿勢に転じつつある

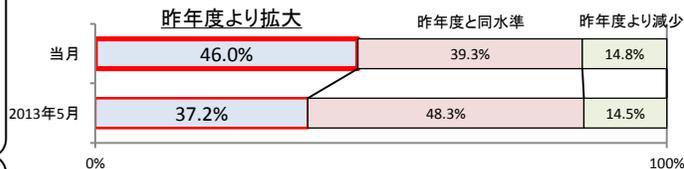
[中小企業の声]

- ▶大手との競争が激しく売上拡大の見通しが立たないため、設備投資をする資金余裕がない(札幌 ペット用品卸売業)
- ▶メッキ加工には多くの電力が必要となるため、国のものづくり補助金を活用し、既存設備を省エネ性能の高いものに更新(東京 メッキ加工業)
- ▶業況はわずかながら好転しているものの、先行きは不透明であり、既存設備の改修・定期更新のみ行う予定(静岡 送風機・ポンプ製造業)
- ▶消費税率の引き上げに備えレジやソフトウェア等の対応のため、設備投資を行う予定(刈谷 酒類小売業)
- ▶年度当初は予定していなかったが、十分なコスト削減効果が見込まれるため店舗照明のLED化を実施(鯖江 食品スーパー)
- ▶かねてより懸案だった倉庫の増設を、消費税率の引き上げ前に駆け込みで実施(明石 食品加工機械製造業)
- ▶CADシステムのバージョンアップを行い、業務環境の共通化による取引先との関係強化を図ると同時に付加価値の向上にも注力(宇部 機械設計・デザイン業)
- ▶顧客の化学プラントが行う設備投資に伴う引き合いが出てきたものの、先行きは不透明(新居浜 プラントメンテナンス業)
- ▶8月に台湾～熊本のチャーター便がスタート。阿蘇地区の観光客増加に対応するため、営業所を新設(熊本 旅行代理業)

◆設備投資の実施の有無



◆設備投資の規模



◆設備投資の内容

